

な るほど その17
本願寺

本願寺の歴史 パート3

やさしく説かれた。また本尊を統一したり、「御文章」を著して積極的な伝道を展開されたので、教えは急速に近江をはじめとする近畿地方や東海、北陸にひろまり、本願寺の興隆をみるようになった。しかし上人の教化は比叡山を刺激し、寛正6年(1465)上人51歳の時、大谷本願寺は比叡山衆徒によって破却された。難を避けられて近江を転々とされた上人は、親鸞聖人像を大津の近松坊舎に安置して、文明3年(1471)に越前(福井県)吉崎に赴かれた。吉崎では盛んに「御文章」や墨書の名号を授与、文明5年には「正信偈・和讃」を開版し、朝夕のお勤めに制定された。

蓮如上人の説かれる平等の教えは、古い支配体制からの解放を求める声となり、門徒たちはついに武装して一揆を起こすに至った。文明7年、上人は争いを鎮めようと吉崎を退去され、河内(大阪府)出口を中心に近畿を教化。文明10年(1478)には京都山科に赴き本願寺の造営に着手、文明12年(1480)に念願の御影堂の再建を果たされ、ついで阿弥陀堂などの諸堂を整えられた。上人の教化によって、本願寺の教線は北海道から九州に至る全国に広まり多くの人に慕われたが、明応8年(1499)85歳で山科本願寺にて往生された。

この後、山科本願寺は次第に発展したが、天文元年(1532)六角定頼や日蓮衆徒によって焼き払われた。そこで蓮如上人が創建された大坂石山御坊に寺基を移し、両堂など寺内町を整備して発展の一途をたどった。(次号に続く)



吉崎御坊古絵図(滋賀県照西寺所蔵)

住職レター

平成最後の善教寺パンフレット(法要日程表)が完成しました。毎年、秋のお彼岸が終わった頃から十月の中旬頃にかけて、来年度の法要日程を調整します。出講いただく講師の先生と日程の調整をしますが、なかなかすんなりと決まりません。

人気の講師は、二年くらい先までスケジュールが入っていらつしやいます。今までご縁の無かった講師を紹介してもらったり、講師との法要日程調整は、意外と気を遣うものです。さて、表紙を飾る今年の言葉は、「諸行無常」としました。昨年「南無阿弥陀仏」、一昨年は「浄縁」、その前は「白骨の章」、そのまた前は「悪人正機」。その年の表紙を飾る言葉、適当に思いつきで選んでいると思われるかもしれませんが、実はよくよく考えているんですよ。その年の世相を反映させたり、私の思いだったり、伝えたい事だったり。表紙の写真、この写真も大変なんです。位置と構図を決めて、何日かに分けて撮り続けます。晴れた日、曇った日、

青空の色加減、雲の量、朝日が照る頃か、夕日を背景に撮るか、何枚も撮り、ベストな一枚を選んでいきます。



善教寺。パンフレット表紙写真

来年の善教寺パン

フレット『平成三十一年

法要日程』とタイトル

明記しておりますが、

新元号の元年でもあ

る訳ですね。再来年は、

新元号で〇〇二年と

なることを思うと、

なんだか感慨深いです。